

コーナーガイドをさせていただきたく福留です。よろしくお願ひします！



ていきます。今回のポイントは2つ！

てみよう！

自分の車に関心を寄せてくれる人と会話

「キレイですねえ。」



思っているのが分かります。②の場合、答えとすることが多く、会話を広げやすくなります。

てみよう！

も同時におっしゃることも多いですね。キックにお手入れができる方法を知らないこ

ったお手入れを



いろいろな答えが出てきます。乗っている年数、で、お手入れ方法を聞きましょう。同時に、お客様もきかけになります。普段の維持方法が分かれようになっていきます

れる店舗の方にもアドバイスいただきました。

ん

ればさらに信頼アップします。でも、施工経験がない。実際、その体験を話しているスタッフを目にする中であれば見ていただいたり、部分的に体験してい

にかく、お客様に挨拶する」です。するとお客様の様子、タイミングをおすすめしやすいのですが、会話の着地点が

いてお客様を知って寄り添ってあげたい。面です座っていますが、気持ちはお客

技術情報 ヘッドライトのくもりで車検が通りにくくなった？

車検の保安基準であるヘッドライトの光度測定が遠目から近目の測定となり、車検が通りにくくなりました。そのような状況下、ヘッドライトクリーン&プロテクトが非常によく売れています。

ヘッドライトに関する新しい保安基準は、平成27年9月の法改正により「平成10年9月1日以降の製造車は、原則ロービームで検査を行うこと」となりました。

そこで、実際にヘッドライトが非常に黄ばんでくもっている車の光度をヘッドライトテスターを使って測定すると、2,100カンデラ※。保安基準の「6,400カンデラ以上」をはるかに下回っています。

またモニターで光の分布を見ると、黄ばみやくもりに乱反射をしているようで、ハイビームのようにヘッドライトの全体が光ってしまっています(写真A)。

ロービームで測定を行う基準のエルポ一点もはっきりしないため、ロービームの正確な設定位置も分からない状態です。

ヘッドライトが黄ばみやくもっていることで、ライトの光がヘッドライトの表面で散乱し、また透明度も下がっていることで、光度を落としてしまっていました。

そこで、このヘッドライトに「ヘッドライトクリーン&プロテクト」を施工しました。ヘッドライトクリーン&プロテクトを行うと、レンズがクリアになり、中のバルブや反射板、そしてレンズのカット模様をはっきり分かるようになります。これでバルブの明るさを遮らず、ロービームの範囲に光が集まり、十分な明るさになります(写真B)。

光度を測定してみると7,400カンデラあり、光の散光もなくなりエルポ一点もはっきりし、保安基準をしっかりとクリアする値になりました。

くもっていたり黄ばんだりしているヘッドライトは、そのくもりと黄ばみで光の透過率が下がり、また散光することで光度が下がってしまいます。光度の保安基準を満たしていないヘッドライトは、ヘッドライトクリーン&プロテクトを行うことで、ロービームでの集光がはっきりし、十分な光度を取り戻すことができ、光度測定による車検が通らない問題を解決します。

※カンデラ…光度の単位で単位記号はcd。国際単位系(SI)の基本単位の一つ。光度は光源からある方向に出る光の強さを表す量のこと。一般的なろうそくは、約1カンデラの光度で光を発する。



ロービームでの光度をヘッドライトテスターを使って検査した

ヘッドライトクリーン&プロテクト施工前

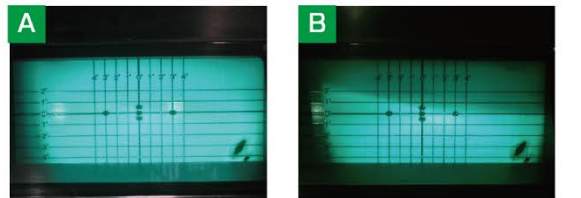


光度2,100カンデラと保安基準の「6,400カンデラ以上」を大きく下回っている

ヘッドライトクリーン&プロテクト施工後



光度7,400カンデラと保安基準の「6,400カンデラ以上」をクリアした。見た目かなりキレイになっている



ヘッドライトクリーン&プロテクト作業工程

1. マスキング

ボディなどに傷を付けないようにレンズ周りにマスキングをします。



★幅広く、2重に貼ります。 ★養生シートを使うと周りが汚れず、後処理が簡単になります。

2. ハードコート・黄変・ボケの除去

レンズ表面のハードコートや、ポリカーボネイトが劣化した黄変やボケをしっかりと除去します。

① パフレバット、パフレックス「グリーン」

劣化したハードコートなどをしっかりと除去。水によく浸したパフレックスで傷んだハードコート層などを擦りながら除去します。



② パフレバット、パフレックス「ブラック」

パフレックスグリーンで付いた白ボケを均等に薄くします。



★時々、タオルで水分を拭き取りきれいに磨いているか確認しながら行います。
★すべりが悪くなったら水を足します。
★力を入れ過ぎず軽く、均一に磨きます。

3. レンズの研磨

① ギャポリシャー、ウールパフ、ミラーポリッシュ

パフレックスブラックで付いた白ボケを消すように、均等に研磨します。



★熱を持たせない(強く磨かない、一ヶ所を集中的に磨かない)。
★コンパウンドが乾いたら水を足します。

② ギャポリシャー、スポンジパフ、アクアポリッシュ

アクアポリッシュを塗布し、レンズ全体の仕上げ研磨をします。



4. グラスプロテクト塗布、完成

ガラスプロテクトを塗布し、ダイヤクロスで乾拭きをします。



★1度目の塗布・乾拭きしてから10分以上乾燥後、2度目を塗ります。
★施工後1時間は水がかからないようにします。

※ポリシャー用パフレックスを使用した場合
劣化がひどい時や、ヘッドライトが広い時に効果的です。